

2023年
3月1日
第3号

ほくとぴあ

第28回全国交流集会
東京現地実行委員会ニュース
発行責任者 奥山 信義
編集責任者 千葉愛一郎

東京ブロック全国交流集会スローガン —— “交流が力、つなげよう次世代に!” ——

全国交流集会まで、あと101日!

— 第28回全国交流集会および労大再建20周年記念集会の開催要項決まる —

3月に入りました。水仙や梅の開花のたよりが全国各地から届く季節になりました。全国交流集会の開催日まで、あと101日となりました。全国の仲間の皆さん、取組み状況はいかがですか。

1月26日に開催された県協連四役・運営委員オンライン会議で、第28回全国交流集会ならびに労働大学再建20周年記念集会の開催要項が決まりましたのでお知らせします。

第28回全国交流集会ならびに労働大学再建20周年記念集会開催要項

◎「第28回全国交流集会」6月10日(土)

- 会場：北とぴあ15階ペガサスホール
- 参加費：2000円(会場代、資料代)
- 参加目標：120名規模
- 第1次集約：3月4日(土) 県代までに氏名集約

◎「労大再建20周年記念集会」6月11日(日)

- 会場：北とぴあ15階ペガサスホール
- 参加費：1000円(弁当代など)
- 名刺広告の掲載を募集：名刺サイズ3000円
(募集対象：各友の会、県協、地区協、労組、党、議員、民主団体へ呼びかける)

— 四国が一丸となって、全国交流・労大再建20周年集会に取り組む! —



労働大学四国ブロック代表 三木政孝

四国ブロック県協連運営委員会を2カ月に1回開催しています。12月の会議では①それぞれの県協総会の開催日、②第38次四国ブロック女性講座の総括➡3年ぶりに4県そろって講演や交流をズームで開催し良かった!の声が多い、③県協連・労大総会の総括、④第28回全国交流集会ならびに労働大学再建20周年記念集会を提起し、具体的な取り組みは23年2月18日のブロック会議になります。

ただ、徳島は1月21日、高知は2月5日、香川も2月5日に県協総会を開催し、四国が一丸となって、全国交流集会ならびに労働大学再建20周年記念集会を取り組み、『月刊まなぶ』3000部拡大=若い担い手づくり=運動の継続・発展へ、そして内外の五人組活動へ!それを努力しながら運動をひろめていきたいと思ひます。四国ブロック代表の柳本さんが勇退し不十分な私(三木)ですが、四国の仲間ならびに全国の仲間に学び歩いていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします!

「散策スポット」 飛鳥山公園 **— 自走式モノレールが運行・山頂駅まで2分 —**



飛鳥山公園は、JR京浜東北線「王子駅」(中央口か南口)から徒歩すぐです。桜が有名ですが、梅雨時の紫陽花や、秋の紅葉も人々の憩いの場となっています。6月10日の全国交流集会では、美しい紫陽花を觀賞してみたいですか？ 山頂駅まで2分のモノレールが運行しています。飛鳥山公園の紫陽花の見頃は、例年6月上旬からです。

— 今年の抱負を出し合い交流を深めた —

東京北部県協会長 宮田光市

東京北部県協は、コロナ禍、対面で集まらない場合はライングループ電話で運営委員会を開催してきた。運営委員は毎月の会議でつながっていて、各自の状況を把握することができる。会員は各自の第一学習会でつながりを持つことができるが、県協的につながる場合は、新春旗開き、春の家族交流会、秋のレク、まなぶ講演会等の年間行事である。

去年は家族交流会とまなぶ講演会を開催し交流できた。今年**は3年ぶりに新春旗開きを開催**することができた。軍拡反対、統一地方選、争議の支援、まなぶを全部読み切る。健康に注意して諸活動に参加していきたい。『経済学入門』で搾取の仕組みをまなぶ。第一学習会とまなぶ学習会を分ける。大衆行動JAL行動に参加、闘うための学習を追求。定昇しか取っていないので、今春闘ではベア取りたい。おしゃべりしながらの登山の追求。JAL争議、会社を向かわせる。メモ化の追求、新聞切り抜きで情勢を把握する。家飲みしない、7,000歩達成で健康管理。今年**の抱負を出し合い交流を深めた**。北部県協の参加目標は10名です。



— 困難を乗り越えて県協新体制を選出、10人超えの参加めざす！ —

東京南部県協副会長 磯部幸夫

東京南部県協の会員は、全員60歳を超えています。そのため体調に問題があり通院している人、老親の介護をしながら働いている人など困難な状況を抱えています。そういう中でも友の会運動を発展させようと頑張っています。

県協旗開き、まなぶ講演会、読者大会。毎年欠かさず開催してきました。特にコロナ禍では全国交流集会が中止となったため、県協として独自に交流会を開催しました。その中で故郷の両親の介護をどうするのか、引っ越すか、自分だけ単身赴任のようになって行き来するかなど切実な悩みがだされました。

昨年11月、県協副会長のKさんが急逝され県協に衝撃を与えました。また事務局次長のSさんも長期療養となりました。困難な状況でしたが12月の県協総会では新体制を選出することができました。あわせて、「**討論と報告・連絡・相談を強化・発展させる県協になる**」という県協年間方針を確認し、踏み出しました。全国交流集会成功に向けて10人以上の参加をめざし議論を始めたところです。